第１回富山市総合計画審議会「第１回 協働・連携部会」
議事録

日時：2015 年 10 月 5 日（月）10:00～12:00
場所：富山市役所　802 会議室
出席者：（順不同）

中村和之	富山大学経済学部学部長・教授（部会長）
今井壽子	NPO 法人花街道薬膳のまちを夢見る会理事長
大間知雄三	公募委員
上口勇三	大沢野地域自治振興連絡協議会会長
川田文人	一般財団法人北陸経済研究所理事長
高田敏成	細入自治会連合会会長
谷井光昭	富山市自治振興連絡協議会会長
吉田良雄	山田地域自治振興会会長

企画管理部　今本部長、上谷理事、西田次長
財務部　竹内次長
市民生活部　清水次長
議会事務局　船木次長
大沢野総合行政センター　森江次長
山田総合行政センター総務振興課　岩杉課長
細入総合行政センター総務振興課　竹井課長

議事内容：

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 部会長職務代理者の指名について
4. 第２次富山市総合計画基本構想（素案）について

○資料「第 2 次富山市総合計画基本構想（素案）」に基づき事務局より説明。

部会長

- 本日は個々の施策というよりは、その前提となる共通認識、大所高所からご議論をいただければと思う。それぞれのお立場から、理念や都市像等についてご意見をいただきたい。
- 富山市には都心があり、郊外があり、豊かな自然がある。相互の関係性をどのように整理し、この 10 年を考えていくかが重要だと考えている。日本の地方都市では市町村合併が進んだが、旧来の自治体と郊外がばらばらになっていたり、地域間に祖語が生じて全体の都市経営がうまくいっていない地域も多い。都心、郊外、豊かな自然を一体的に考えられることは富山市の強みだろう。一本筋の通った都市計画・構想を打ち出すことができれば、全国的に見ても都市経営のモデルになり得る

と考えている。

- 「主要課題」や「取り巻く状況」等、それぞれの項目の関係性が整理されていると全体像が見えやすいと思う。例えば、伝統文化の継承やシティプロモーションは交流人口の拡大につながる。施策に落とし込んだ時に縦割りにならないよう、各項目や施策の関連性について整理していただきたい。

委員

- 富山市と富山県との役割がどのように分担されているのか、素人目からすると分かりにくい。
- 富山市の知名度は非常に低いと思う。住民もそれに対してあまり関心がない。せっかく富山市を訪れてもらっても受け入れる市民がどうでもよいと考えていると、面白いものにはならないだろう。住民自身が「富山市はいいところだ」と思えるような意識付けも必要ではないか。
- 富山県外に出て成功する人は多いが、市内で成功する人は少ないと感じている。地元の得意分野を強化していくことで、富山の良さを認識するといった視点も必要だろう。

部会長

- 富山市は県都の所在地であり、県全体、北陸全体でも存在感を持った地域である。県都として、地方全体をどう考えていくかは重要な課題だろう。
- 知名度の低さは、資料 P.13 の「シティプロモーションの推進とシビックプライドの醸成」にも関わる。シビックプライドとブランディングという言葉の響きはよいが、具体的にどう進めていくのか、シビックプライドとは何か、ブランディングとは具体的には何をするのか、基本構想を見た市民にも伝わる内容にする必要がある。
- 得意分野の強化は、誇りやシビックプライドの醸成につながる。ある種のブランディングとも言えるだろう。富山はプロモーションがあまりうまくなく、自分を前面に出すことをしてこなかった。こうした観点については、他の施策との関係についても考える必要がある。

委員

- 合併から 10 年経ち、13 地域が一つの富山市を形成するようになった。中山間地域をどのように組み込んでいくかは非常に重要な課題である。中山間地域では、人口減少が進み崩壊する集落も出てきている状況だ。
- 富山市らしさについて、個人的には暗いイメージを持っている。「富山らしさ」という言葉もあまり適切ではないように思う。「富山市はこういうところだ」と位置づけていくことが必要だろう。市民が夢と希望を持つことができ、自分自身が主役だと感じられるようなものを示す必要がある。

部会長

- 「富山らしさ」について、否定的なイメージを持っている人もいるという意見だが、時間をかけて少しずつでも変えていかなければならないし、そのためのアクションが必要だろう。
- 基本構想や基本計画で、富山市としてどのようなところを目指すのか、明確なメッセージを打ち出せるとよい。
- 中山間地域の問題は、富山市を特徴づけるものの一つだ。富山市はコンパクトシティの先進事例だと言われるが、こうした問題意識も踏まえた上で市街地の空洞化や中山間地域の人口減少問題に取り組んでいく必要がある。

委員

- 中山間地域側が置き去りにされているように感じる。

- 山田地域では地域おこし協力隊を 2 名受け入れているが、協力隊の方から「山田の風景は素晴らしい」という意見を聞いた。中山間地域でも、人を喜ばせることができるような資源を見いだせるとよい。

部会長

- 限界集落も出てきている中で、どのように串と団子構造を深化させるかが重要である。コンパクトシティの構想が出されて 10 年ほどになると思うが、定住・移住が急激に増えることはない。長い目で取組を見ていく必要があるだろう。
- 中山間地域には、我々がまだ気づいていない資産がある。こうした資産を活用できればブランディングにもつながる。観光や交流においては、外から来た人が地域の資産に気づくという話が必ず出てくる。地域の活性化につながるようなブランディングを本気で考えていただきたい。
- シビックプライドということも大きな検討課題の一つである。部会の中で詰めていければと思う。

委員

- 串と団子の図があるが、団子の中身をどのように取り組んでいけるかが重要だろう。
- 例えばイベントの情報について、新聞でも様々な取組を見るが、終わった後で知ることが多い。広報の取組も弱いのではないか。

部会長

- シティプロモーションの推進について、行政が率先して取り組むことも大事だが、市民との協働・連携との中でどのように取り組んでいくのかが重要である。海外も含めたプロモーションと同時に、市民目線でのシティプロモーションもある。

委員

- 全体の構成についてだが、都市像と都市構造が別々の場所に記載されている。都市に関する項目が二つ分かれている意味は何か。

事務局

- ➢ 基本構想の素案は、平成 17 年の新市建設計画を踏襲している。富山市には都市部もあれば、田園地域や山岳地域もある。コンパクトシティについては新しい総合計画の中でも、引き続き検討していく必要がある。

部会長

- 前計画をもとに基本構想の構成を考えたとのことだが、この点についてご意見をいただきたい。

委員

- 「富山市の現状と課題」について、全体として成功しているという評価は結構だが、問題点や課題についても言及された方がよいのではないか。
- 「時代の潮流」と「富山市を取り巻く状況」の切り分け方はどのようにされているのか。「時代の潮流」において「文化・芸術に対する気運の高まり」が突然出てくることに違和感を感じた。スポーツも含めて一緒くたに記載されているが、文化・芸術と地域活動とは重なるようで重なっていないように思う。
- 「富山市を取り巻く状況」は、必ずしも富山市の課題ではないという印象を持っており、もう少し整理いただきたい。また、「主要課題」との紐付けがうまくできるとよい。課題の切り出し方と現状認識の関係をシャープにしていただきたい。

部会長

- 中山間地域の課題については、人口減少下でより深刻化していく可能性もあり、どのように問題をとらえ、施策の中に反映していくのか、言及しておく必要があるだろう。中心市街地の空洞化も非常に重要な問題である。
- 都市部と中山間地域の対立構造ととらえるのではなく、都心機能の充実が中山間地の課題解決に資する部分もあり、中山間地の魅力の開発が富山市全体の価値を高め、ブランディングにつながる面を考慮した上で、今後の方向性について問題提起できるとよい。
- 都市像に対して疑問感を持たれるとメッセージも伝わりづらくなる。調整部会でも検討を行うのか。

事務局

- 調整部会でも検討する予定である。

委員

- 「時代の潮流」の「文化・芸術の機運の高まり」や、施策の大綱にスポーツ・レクリエーションについての言及があるが、生涯学習との関係性はどうなっているのか。関連がはっきりしていない。

委員

- 合併の際には地区センターの役割に期待をしていたが、個人的には期待を裏切られたという思いがある。今後は地区センターの機能を拡充していく必要があるのではないか。地区センターの機能の強化は富山市としての一体感を高めることにもつながると考えている。

部会長

- 人口減少下において今まで通りの行政サービスを維持することは難しい。今後はそれぞれの地区に合った行政サービスの提供の仕方を考えていく必要があるが、その際、行政と地元の人々との関係性が非常に重要になってくる。現行の地区センターについてどうあるべきか、将来的にどうしていくべきか検討する必要があるだろう。
- 「文化・芸術の気運の高まり」についてはとってつけた感がある。何に対する気運の高まりなのか、不明瞭である。

部会長

- 富山市として他に先駆けて取り組むことが重要だろう。

事務局

- 主要施策（２）でも芸術・文化に関する取組に言及している。富山市としての独自の色合いを出すことにもつながると考えており、構成については検討させていただきたい。

委員

- 富山市で生まれ育ったが、この10年間、富山市には本当によく取り組んでいただいたと思っている。工業が発達しているのに自然も恵まれ、環境未来都市としても認められている。経済的にも豊かであり、田舎では多世代同居や分家も増えており、悲しいことばかりではないと思っている。
- 「時代の潮流」についてだが、世界的に見れば人口は爆発する時代である。そうした視点もあるかもしれない。
- 10年前の富山駅前には飲食店も2~3店しかないような状況だった。市民と行政との協働により、元気な富山になってきたと感じている。富山市民自らがやりたいと思うことを行政と相談しつつ進めていけるとよい。

- 中山間地域には補助金も回ってこないというイメージが強い。全体を見ているという視点があるとよい。コンパクトシティは税金の減少にもつながると言われているが、中山間地域の限界集落にも１軒でも家がある限り税金が投入されていく。そうした課題についても考慮する必要があるだろう。
- 私が若いころは、20 歳になったら一か月でも早く子供を産むと賢く元気な子供が生まれると言われていた。20 代と 40 代での出産数は全く異なっている。

部会長

- 世代によっても考えていることは違う。誤解がある部分についてはきちっと情報を伝えていく必要があるし、解決していかなければならない課題については基本計画の中に位置づける必要がある。
- 世界的には人口爆発の時代だという話もあったが、グローバルな視点も地方自治の中に必要な視点である。今回の資料に盛り込んでほしいということではないが、必要な視点だろう。
- 今回の範疇に収まらない部分については調整部会で検討することもできる。

事務局

- 次回は 11 月中下旬を予定している。またご連絡させていただく。

以上